

| | |
|-------|---|
| 科目名 | 教育実習実践指導 (FC05E410) |
| 英文科目名 | Empirical Guidance for Teaching Practice |
| 担当教員名 | 中島弘徳(なかじまひろのり), 岡本弥彦(おかもとやすひこ), 石井一郎*(いしいいちろう*), 津田秀哲*(つだひでのり*), 福田博人(ふくだひろと), 藤本義博(ふじもとよしひろ), 曾我雅比児(そがまさひこ), 皿田琢司(さらたたくじ), 塗木利明(ぬるきとしあき) |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 春学期 |
| 曜日時限 | 月曜日 5時限 |
| 対象クラス | 理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部 |
| 単位数 | 2.0 |
| 授業形態 | 講義 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|---|
| 1回 | オリエンテーション。受講要領と講義概要を説明する。 (中島 弘徳, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 皿田 琢司, 曾我 雅比児) |
| 2回 | 学校の意義と機能について、演習を含めて説明する。 (中島 弘徳, 皿田 琢司, 曾我 雅比児) |
| 3回 | 教師の使命と職責について、演習を含めて説明する。 (中島 弘徳, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 皿田 琢司, 曾我 雅比児) |
| 4回 | 学校の意義や教師の使命に関する小論文の作成と添削指導をする。 (中島 弘徳, 皿田 琢司, 曾我 雅比児) |
| 5回 | 生徒理解と生徒指導について、演習を含めて説明する。 (中島 弘徳, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 皿田 琢司, 曾我 雅比児) |
| 6回 | 教育課程及び学習指導の理論と方法について、演習を含めて説明する。 (中島 弘徳, 皿田 琢司, 曾我 雅比児) |
| 7回 | 生徒指導や学習指導に関する小論文の作成と添削指導をする。 (中島 弘徳, 皿田 琢司, 曾我 雅比児) |
| 8回 | 家庭、地域及び学校間の連携協力について、演習を含めて説明する。 (中島 弘徳, 皿田 琢司, 曾我 雅比児) |
| 9回 | 現代の教育改革の動向について、演習を含めて説明する。 (中島 弘徳, 皿田 琢司, 曾我 雅比児) |
| 10回 | 家庭、地域、学校の連携に関する小論文の作成と添削指導をする。 (全教員) |
| 11回 | 学習集団の特質と指導について、演習を含めて説明する。その1 (全教員) |
| 12回 | 学習集団の特質と指導について、演習を含めて説明する。その2 (全教員) |
| 13回 | 学習集団の特質を踏まえた学級経営に関する小論文の作成と添削指導をする。 (全教員) |
| 14回 | 学習集団の特質を踏まえた場面指導(生徒指導を中心に)を行う。 (全教員) |
| 15回 | 学習集団の特質を踏まえた場面指導(学習指導を中心に)を行う。 (全教員) |

| | |
|----|------|
| 回数 | 準備学習 |
|----|------|

| | |
|-----|--|
| 1回 | 受験予定の都道府県市の教員採用試験の要項について概要を把握しておくこと。教職関連科目の学習を通して得た知識全般について、教育実践への反映・活用を中心に振り返っておくこと（標準学習時間150分）。 |
| 2回 | 教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）及び教育行政学（または学校経営）を復習して学校本来の意義と機能について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 3回 | 教職論（08年度以前入学生は現代教師論）、教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、及び教育行政学（または学校経営）を復習して教員の資質能力や期待される役割等について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 4回 | 教員採用試験で出題される小論文の出題傾向を把握しておくこと。原稿用紙の基本的な使い方を習得し直しておくこと（括弧、句読点、言葉遣い等を含む）（標準学習時間180分）。 |
| 5回 | 教育心理学（基礎理学科生は学習・発達論）、生徒・進路指導論（07年度以前入学生は生徒指導等の研究）、教育相談の研究を復習して生徒理解と生徒指導のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 6回 | 教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、教育課程論、及び各教科教育法を復習して教育課程の編成や学習指導に関する基本原理について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 7回 | 授業後の添削指導で指摘された弱点を確かめ、必要な知識の再確認と活用を中心に課題の克服に努めておくこと（標準学習時間180分）。 |
| 8回 | 教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、教育行政学（または学校経営）、教育課程論、及び総合演習を復習して家庭、地域、学校との連携協力のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 9回 | 前回までの学習内容を復習し、学校を中心とした教育改革の概要について、必要な知識を活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 10回 | 授業後の添削指導でさらに指摘された弱点を再確認し、必要な知識の振り返りと活用を中心に課題の克服に努めておくこと（標準学習時間180分）。 |
| 11回 | 教育課程論、特別活動の研究、及び道徳教育の研究を復習して生徒集団の基本的対応のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 12回 | 教育課程論、各教科教育法、及び教育の方法と技術を復習して学習集団の基本的対応のあり方について知識を再確認し、それら活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 13回 | 授業後の添削指導までに指摘された弱点を総復習し、必要な知識の再確認と活用を中心に課題を完全に克服しておくこと（標準学習時間180分）。 |
| 14回 | 前回までの学習内容を復習して学校教育をめぐる課題等を整理し、生徒指導に関わる今後必要とされる取り組みについて、必要な知識を活用しつつ自分の言葉で表現できるように考えておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 15回 | 前回までの学習内容を総復習して教員としての自己の課題等を整理し、学習指導に関わる今後必要とされる取り組みと決意について、必要な知識を活用しつつ自分の言葉で表現できるように考えておくこと（標準学習時間180分、なお継続することが望ましい）。 |

| | |
|--------------|---|
| 講義目的 | 教育実習を終えた者を対象に、次の各要素からなる実践的指導力をなお一層高めることを目的とする。 ・教師として必要な論理的思考力及び文章構成力 ・集団におけるリーダーシップ、協調性及び調整能力 ・学習理論の知識と学習指導の力量・教職に必要な知見（教育観、子ども観、教材観等） ・「生きる力」の育成に求められるカウンセリング・マインド、生徒指導観及び学級経営観（教職・学芸員センター教育課程・実施の方針E-3にもっとも強く関与） |
| 達成目標 | 不断の学習に基づき、教師に必要な資質・能力がどのようなものであるかを説明することができる。 上記の理解を含めて、次のことについて口頭及び筆記により明瞭に説明することができる。 ・志望動機、理想の教師像、教職及び教科の魅力、教師の実践的指導力 ・学校や教師に期待される役割（普遍的役割と時代状況に即した役割） ・現行の教育政策の概要とそれに対する自らの意見 ・学校現場において想定される問題状況への基本的な対応方針 |
| キーワード | 教員採用試験、実践的指導力、教育実習、面接・討論、小論文 |
| 成績評価（合格基準60） | 演習における発表や記述の内容（50～60%）、課題の作成・提出の取り組み（40～50%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。この比率は受講者の学習状況により見直すことがある。 |
| 関連科目 | 1～3年次開講の教職関連科目（教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する |

| | |
|-------|--|
| | <p>科目)のうち教免必修科目及び単位数をすべて修得していることが望ましい。 教育実習 ・ を履修していること、教育実習事前・事後指導の仮評価がRであることが望ましい。 各教科教育法 ・ 、文章表現法 、プレゼンテーション をすべて修得しているか、同時に履修していることが望ましい。 本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。</p> |
| 教科書 | 教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付または貸与する。 |
| 参考書 | <p>学習指導要領(受験予定の校種の最新版。文科省ウェブサイトからダウンロードしてもよい)。 受験予定の都道府県市の教員採用試験実施要項(各自治体教育委員会ウェブサイトからダウンロードしてもよい)。 その他適宜指示する。</p> |
| 連絡先 | <p>曾我研究室：B 8号館(旧14号館)4階 中島研究室：B 8号館(旧14号館)3階 皿田研究室：B 2号館(旧13号館)3階 資格取得支援課：C 1号館(旧25号館)6階</p> |
| 注意・備考 | <p>公立学校の教員採用試験または私立学校教員適性検査を受験する者を主たる履修対象者とする。</p> <p>自らの言動や習慣を日ごろから見直し、高い意欲をもって学習に取り組む態度が強く望まれる。 提出された小論文は添削した後で返却する。 15回のうち10回の授業でアクティブ・ラーニング(グループ討議、グループワーク、場面指導と相互評価など)を採り入れる。</p> |
| 試験実施 | 実施しない |

| | |
|-------|--|
| 科目名 | 教育実習実践指導 (FC05J410) |
| 英文科目名 | Empirical Guidance for Teaching Practice |
| 担当教員名 | 曾我雅比児 (そがまさひこ), 中島弘徳 (なかじまひろのり), 岡本弥彦 (おかもとやすひこ), 石井一郎* (いしいいちろう*), 津田秀哲* (つだひでのり*), 福田博人 (ふくだひろと), 藤本義博 (ふじもとよしひろ), 皿田琢司 (さらたたくじ), 塗木利明 (ぬるきとしあき) |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 春学期 |
| 曜日時限 | 火曜日 5時限 |
| 対象クラス | 理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部 |
| 単位数 | 2.0 |
| 授業形態 | 講義 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|--|
| 1回 | オリエンテーション。受講要領と講義概要を説明する。 (曾我 雅比児, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 中島 弘徳, 皿田 琢司) |
| 2回 | 学校の意義と機能について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司) |
| 3回 | 教師の使命と職責について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 中島 弘徳, 皿田 琢司) |
| 4回 | 学校の意義や教師の使命に関する小論文の作成と添削指導をする。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司) |
| 5回 | 生徒理解と生徒指導について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 中島 弘徳, 皿田 琢司) |
| 6回 | 教育課程及び学習指導の理論と方法について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司) |
| 7回 | 生徒指導や学習指導に関する小論文の作成と添削指導をする。 (曾我 雅比児, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 中島 弘徳, 皿田 琢司) |
| 8回 | 家庭、地域及び学校間の連携協力について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 中島 弘徳, 皿田 琢司) |
| 9回 | 現代の教育改革の動向について、演習を含めて説明する。 (曾我 雅比児, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 中島 弘徳, 皿田 琢司) |
| 10回 | 家庭、地域、学校の連携に関する小論文の作成と添削指導をする。 (全教員) |
| 11回 | 学習集団の特質と指導について、演習を含めて説明する。その1 (全教員) |
| 12回 | 学習集団の特質と指導について、演習を含めて説明する。その2 (全教員) |
| 13回 | 学習集団の特質を踏まえた学級経営に関する小論文の作成と添削指導をする。 (全教員) |
| 14回 | 学習集団の特質を踏まえた場面指導(生徒指導を中心に)を行う。 (全教員) |
| 15回 | 学習集団の特質を踏まえた場面指導(学習指導を中心に)を行う。 (全教員) |

| | |
|----|------|
| 回数 | 準備学習 |
|----|------|

| | |
|-----|--|
| 1回 | 受験予定の都道府県市の教員採用試験の要項について概要を把握しておくこと。教職関連科目の学習を通して得た知識全般について、教育実践への反映・活用を中心に振り返っておくこと（標準学習時間150分）。 |
| 2回 | 教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）及び教育行政学（または学校経営）を復習して学校本来の意義と機能について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 3回 | 教職論（08年度以前入学生は現代教師論）、教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、及び教育行政学（または学校経営）を復習して教員の資質能力や期待される役割等について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 4回 | 教員採用試験で出題される小論文の出題傾向を把握しておくこと。原稿用紙の基本的な使い方を習得し直しておくこと（括弧、句読点、言葉遣い等を含む）（標準学習時間180分）。 |
| 5回 | 教育心理学（基礎理学科生は学習・発達論）、生徒・進路指導論（07年度以前入学生は生徒指導等の研究）、教育相談の研究を復習して生徒理解と生徒指導のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 6回 | 教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、教育課程論、及び各教科教育法を復習して教育課程の編成や学習指導に関する基本原理について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 7回 | 授業後の添削指導で指摘された弱点を確かめ、必要な知識の再確認と活用を中心に課題の克服に努めておくこと（標準学習時間180分）。 |
| 8回 | 教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、教育行政学（または学校経営）、教育課程論、及び総合演習を復習して家庭、地域、学校との連携協力のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 9回 | 前回までの学習内容を復習し、学校を中心とした教育改革の概要について、必要な知識を活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 10回 | 授業後の添削指導でさらに指摘された弱点を再確認し、必要な知識の振り返りと活用を中心に課題の克服に努めておくこと（標準学習時間180分）。 |
| 11回 | 教育課程論、特別活動の研究、及び道徳教育の研究を復習して生徒集団の基本的対応のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 12回 | 教育課程論、各教科教育法、及び教育の方法と技術を復習して学習集団の基本的対応のあり方について知識を再確認し、それら活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 13回 | 授業後の添削指導までに指摘された弱点を総復習し、必要な知識の再確認と活用を中心に課題を完全に克服しておくこと（標準学習時間180分）。 |
| 14回 | 前回までの学習内容を復習して学校教育をめぐる課題等を整理し、生徒指導に関わる今後必要とされる取り組みについて、必要な知識を活用しつつ自分の言葉で表現できるように考えておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 15回 | 前回までの学習内容を総復習して教員としての自己の課題等を整理し、学習指導に関わる今後必要とされる取り組みと決意について、必要な知識を活用しつつ自分の言葉で表現できるように考えておくこと（標準学習時間180分、なお継続することが望ましい）。 |

| | |
|--------------|---|
| 講義目的 | 教育実習を終えた者を対象に、次の各要素からなる実践的指導力をなお一層高めることを目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師として必要な論理的思考力及び文章構成力 ・集団におけるリーダーシップ、協調性及び調整能力 ・学習理論の知識と学習指導の力量・教職に必要な知見（教育観、子ども観、教材観等） ・「生きる力」の育成に求められるカウンセリング・マインド、生徒指導観及び学級経営観（教職・学芸員センター教育課程・実施の方針E-3にもっとも強く関与） |
| 達成目標 | 不断の学習に基づき、教師に必要な資質・能力がどのようなものであるかを説明することができる。 上記の理解を含めて、次のことについて口頭及び筆記により明瞭に説明することができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・志望動機、理想の教師像、教職及び教科の魅力、教師の実践的指導力 ・学校や教師に期待される役割（普遍的役割と時代状況に即した役割） ・現行の教育政策の概要とそれに対する自らの意見 ・学校現場において想定される問題状況への基本的な対応方針 |
| キーワード | 教員採用試験、実践的指導力、教育実習、面接・討論、小論文 |
| 成績評価（合格基準60） | 演習における発表や記述の内容（50～60％）、課題の作成・提出の取り組み（40～50％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。この比率は受講者の学習状況により見直すことがある。 |
| 関連科目 | 1～3年次開講の教職関連科目（教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する |

| | |
|-------|--|
| | <p>科目)のうち教免必修科目及び単位数をすべて修得していることが望ましい。 教育実習 ・ を履修していること、教育実習事前・事後指導の仮評価がRであることが望ましい。 各教科教育法 ・ 、文章表現法 、プレゼンテーション をすべて修得しているか、同時に履修していることが望ましい。 本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。</p> |
| 教科書 | 教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付または貸与する。 |
| 参考書 | <p>学習指導要領(受験予定の校種の最新版。文科省ウェブサイトからダウンロードしてもよい)。 受験予定の都道府県市の教員採用試験実施要項(各自治体教育委員会ウェブサイトからダウンロードしてもよい)。 その他適宜指示する。</p> |
| 連絡先 | <p>曾我研究室：B 8号館(旧14号館)4階 中島研究室：B 8号館(旧14号館)3階 皿田研究室：B 2号館(旧13号館)3階 資格取得支援課：C 1号館(旧25号館)6階</p> |
| 注意・備考 | <p>公立学校の教員採用試験または私立学校教員適性検査を受験する者を主たる履修対象者とする。</p> <p>自らの言動や習慣を日ごろから見直し、高い意欲をもって学習に取り組む態度が強く望まれる。 提出された小論文は添削した後で返却する。 15回のうち10回の授業でアクティブ・ラーニング(グループ討議、グループワーク、場面指導と相互評価など)を採り入れる。</p> |
| 試験実施 | 実施しない |

| | |
|-------|--|
| 科目名 | 教育実習実践指導 (FC050410) |
| 英文科目名 | Empirical Guidance for Teaching Practice |
| 担当教員名 | 皿田琢司 (さらたたくじ), 中島弘徳 (なかじまひろのり), 岡本弥彦 (おかもとやすひこ), 石井一郎* (いしいいちろう*), 津田秀哲* (つだひでのり*), 福田博人 (ふくだひろと), 藤本義博 (ふじもとよしひろ), 曾我雅比兒 (そがまさひこ), 塗木利明 (ぬるきとしあき) |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 春学期 |
| 曜日時限 | 水曜日 5時限 |
| 対象クラス | 理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部 |
| 単位数 | 2.0 |
| 授業形態 | 講義 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|--|
| 1回 | オリエンテーション。受講要領と講義概要を説明する。 (皿田 琢司, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 曾我 雅比兒, 中島 弘徳) |
| 2回 | 学校の意義と機能について、演習を含めて説明する。 (皿田 琢司, 曾我 雅比兒, 中島 弘徳) |
| 3回 | 教師の使命と職責について、演習を含めて説明する。 (皿田 琢司, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 曾我 雅比兒, 中島 弘徳) |
| 4回 | 学校の意義や教師の使命に関する小論文の作成と添削指導をする。 (皿田 琢司, 曾我 雅比兒, 中島 弘徳) |
| 5回 | 生徒理解と生徒指導について、演習を含めて説明する。 (皿田 琢司, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 曾我 雅比兒, 中島 弘徳) |
| 6回 | 教育課程及び学習指導の理論と方法について、演習を含めて説明する。 (皿田 琢司, 曾我 雅比兒, 中島 弘徳) |
| 7回 | 生徒指導や学習指導に関する小論文の作成と添削指導をする。 (皿田 琢司, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 曾我 雅比兒, 中島 弘徳) |
| 8回 | 家庭、地域及び学校間の連携協力について、演習を含めて説明する。 (皿田 琢司, 曾我 雅比兒, 中島 弘徳) |
| 9回 | 現代の教育改革の動向について、演習を含めて説明する。 (皿田 琢司, 石井 一郎*, 津田 秀哲*, 曾我 雅比兒, 中島 弘徳) |
| 10回 | 家庭、地域、学校の連携に関する小論文の作成と添削指導をする。 (全教員) |
| 11回 | 学習集団の特質と指導について、演習を含めて説明する。その1 (全教員) |
| 12回 | 学習集団の特質と指導について、演習を含めて説明する。その2 (全教員) |
| 13回 | 学習集団の特質を踏まえた学級経営に関する小論文の作成と添削指導をする。 (全教員) |
| 14回 | 学習集団の特質を踏まえた場面指導 (生徒指導を中心に) を行う。 (全教員) |
| 15回 | 学習集団の特質を踏まえた場面指導 (学習指導を中心に) を行う。 (全教員) |

| | |
|----|------|
| 回数 | 準備学習 |
|----|------|

| | |
|-----|--|
| 1回 | 受験予定の都道府県市の教員採用試験の要項について概要を把握しておくこと。教職関連科目の学習を通して得た知識全般について、教育実践への反映・活用を中心に振り返っておくこと（標準学習時間150分）。 |
| 2回 | 教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）及び教育行政学（または学校経営）を復習して学校本来の意義と機能について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 3回 | 教職論（08年度以前入学生は現代教師論）、教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、及び教育行政学（または学校経営）を復習して教員の資質能力や期待される役割等について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 4回 | 教員採用試験で出題される小論文の出題傾向を把握しておくこと。原稿用紙の基本的な使い方を習得し直しておくこと（括弧、句読点、言葉遣い等を含む）（標準学習時間180分）。 |
| 5回 | 教育心理学（基礎理学科生は学習・発達論）、生徒・進路指導論（07年度以前入学生は生徒指導等の研究）、教育相談の研究を復習して生徒理解と生徒指導のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 6回 | 教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、教育課程論、及び各教科教育法を復習して教育課程の編成や学習指導に関する基本原理について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 7回 | 授業後の添削指導で指摘された弱点を確かめ、必要な知識の再確認と活用を中心に課題の克服に努めておくこと（標準学習時間180分）。 |
| 8回 | 教育学原論（基礎理学科生は教育基礎論）、教育行政学（または学校経営）、教育課程論、及び総合演習を復習して家庭、地域、学校との連携協力のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 9回 | 前回までの学習内容を復習し、学校を中心とした教育改革の概要について、必要な知識を活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 10回 | 授業後の添削指導でさらに指摘された弱点を再確認し、必要な知識の振り返りと活用を中心に課題の克服に努めておくこと（標準学習時間180分）。 |
| 11回 | 教育課程論、特別活動の研究、及び道徳教育の研究を復習して生徒集団の基本的対応のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 12回 | 教育課程論、各教科教育法、及び教育の方法と技術を復習して学習集団の基本的対応のあり方について知識を再確認し、それらを活用しつつ自分の言葉（口頭及び筆記）で表現できるようにしておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 13回 | 授業後の添削指導までに指摘された弱点を総復習し、必要な知識の再確認と活用を中心に課題を完全に克服しておくこと（標準学習時間180分）。 |
| 14回 | 前回までの学習内容を復習して学校教育をめぐる課題等を整理し、生徒指導に関わる今後必要とされる取り組みについて、必要な知識を活用しつつ自分の言葉で表現できるように考えておくこと（標準学習時間100分）。 |
| 15回 | 前回までの学習内容を総復習して教員としての自己の課題等を整理し、学習指導に関わる今後必要とされる取り組みと決意について、必要な知識を活用しつつ自分の言葉で表現できるように考えておくこと（標準学習時間180分、なお継続することが望ましい）。 |

| | |
|-------------|---|
| 講義目的 | 教育実習を終えた者を対象に、次の各要素からなる実践的指導力をなお一層高めることを目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師として必要な論理的思考力及び文章構成力 ・集団におけるリーダーシップ、協調性及び調整能力 ・学習理論の知識と学習指導の力量・教職に必要な知見（教育観、子ども観、教材観等） ・「生きる力」の育成に求められるカウンセリング・マインド、生徒指導観及び学級経営観（教職・学芸員センター教育課程・実施の方針E-3にもっとも強く関与） |
| 達成目標 | 不断の学習に基づき、教師に必要な資質・能力がどのようなものであるかを説明することができる。 上記の理解を含めて、次のことについて口頭及び筆記により明瞭に説明することができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・志望動機、理想の教師像、教職及び教科の魅力、教師の実践的指導力 ・学校や教師に期待される役割（普遍的役割と時代状況に即した役割） ・現行の教育政策の概要とそれに対する自らの意見 ・学校現場において想定される問題状況への基本的な対応方針 |
| キーワード | 教員採用試験、実践的指導力、教育実習、面接・討論、小論文 |
| 成績評価（合格基準60 | 演習における発表や記述の内容（50～60%）、課題の作成・提出の取り組み（40～50%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。この比率は受講者の学習状況により見直すことがある。 |
| 関連科目 | 1～3年次開講の教職関連科目（教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する |

| | |
|-------|--|
| | <p>科目)のうち教免必修科目及び単位数をすべて修得していることが望ましい。 教育実習 ・ を履修していること、教育実習事前・事後指導の仮評価がRであることが望ましい。 各教科教育法 ・ 、文章表現法 、プレゼンテーション をすべて修得しているか、同時に履修していることが望ましい。 本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。</p> |
| 教科書 | 教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付または貸与する。 |
| 参考書 | <p>学習指導要領(受験予定の校種の最新版。文科省ウェブサイトからダウンロードしてもよい)。 受験予定の都道府県市の教員採用試験実施要項(各自治体教育委員会ウェブサイトからダウンロードしてもよい)。 その他適宜指示する。</p> |
| 連絡先 | <p>曾我研究室：B 8号館(旧14号館)4階 中島研究室：B 8号館(旧14号館)3階 皿田研究室：B 2号館(旧13号館)3階 資格取得支援課：C 1号館(旧25号館)6階</p> |
| 注意・備考 | <p>公立学校の教員採用試験または私立学校教員適性検査を受験する者を主たる履修対象者とする。</p> <p>自らの言動や習慣を日ごろから見直し、高い意欲をもって学習に取り組む態度が強く望まれる。 提出された小論文は添削した後で返却する。 15回のうち10回の授業でアクティブ・ラーニング(グループ討議、グループワーク、場面指導と相互評価など)を採り入れる。</p> |
| 試験実施 | 実施しない |

| | |
|-------|--|
| 科目名 | 教育実習 (FC05Z410) |
| 英文科目名 | Teaching Practices I |
| 担当教員名 | 塗木利明(ぬるきとしあき), 中島弘徳(なかじまひろのり), 岡本弥彦(おかもとやすひこ), 津田秀哲*(つだひでのり*), 福田博人(ふくだひろと), 藤本義博(ふじもとよしひろ), 曾我雅比呂(そがまさひこ), 皿田琢司(さらたたくじ) |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 春学期 |
| 曜日時限 | 集中講義 その他 |
| 対象クラス | 理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部 |
| 単位数 | 1.0 |
| 授業形態 | 実験実習 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|--------------------------------------|
| 1回 | 教育実習(観察実習)の意義と内容について説明する。 (全教員) |
| 2回 | 実習校説明(教師の仕事)と校内見学を行う。 (全教員) |
| 3回 | 実習校説明(校務分掌)と校内見学を行う。 (全教員) |
| 4回 | 実習校説明(生徒指導)と校内見学を行う。 (全教員) |
| 5回 | 実習校説明(教師と授業)と校内見学を行う。 (全教員) |
| 6回 | 授業参観(理系教科)と研究協議を行う。 (全教員) |
| 7回 | 授業参観(文系教科)と研究協議を行う。 (全教員) |
| 8回 | 授業参観(実技教科)と研究協議を行う。 (全教員) |
| 9回 | 授業参観(実技教科)と研究協議を行う。 (全教員) |
| 10回 | 特別活動(学級活動・生徒会活動)参観と研究協議を行う。 (全教員) |
| 11回 | 特別活動(学校行事)参観と研究協議を行う。 (全教員) |
| 12回 | 部活動(運動部)参観と研究協議を行う。 (全教員) |
| 13回 | 部活動(文化部)参観と研究協議を行う。 (全教員) |
| 14回 | 参観結果の発表と質疑応答を行う。 (全教員) |
| 15回 | 報告書を作成する。 (全教員) |

| | |
|----|------|
| 回数 | 準備学習 |
|----|------|

| | |
|-----|--|
| 1回 | 「教職・博物館学芸員課程履修の手引き」、「教育実習録」の実施要項に目を通して教育実習の意義、目的、心構えなどについて振り返っておくこと（標準学習時間180分）。 |
| 2回 | 「教職論」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 3回 | 「教職論」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 4回 | 「生徒・進路指導論」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 5回 | 「教育課程論」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 6回 | 「教育の方法と技術」や各教科の教育法の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 7回 | 「教育の方法と技術」や各教科の教育法の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 8回 | 「教育の方法と技術」や各教科の教育法の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 9回 | 「道徳教育の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 10回 | 「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 11回 | 「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 12回 | 「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 13回 | 「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 14回 | 実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 15回 | 実習校の指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |

| | |
|---------------|--|
| 講義目的 | この科目は、中学校の教員免許状取得希望者が実際の教育現場において教育活動を観察するものである。その主要な目的は、実践的な指導技術の理解、学校教育の実際についての認識の体得、教職に対する意識の向上と自らの適性の検証などである。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針E-4にもっとも強く関与する) |
| 達成目標 | 実践的な指導技術を理解し修得すること。 学校教育の実際についての認識を体得すること。 教職に対する意識の向上と自らの適性の検証ができること。 |
| キーワード | 教育活動の観察，教育実習，観察実習 |
| 成績評価（合格基準60%） | 教育実習校からの成績（80%），教育実習録の内容（20%）により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。 |
| 関連科目 | 教育実習，教育実習実践指導 |
| 教科書 | 実習校で使用する教科書 |
| 参考書 | 実習校で使用する参考書 |
| 連絡先 | 塗木研究室：工学実習棟2階 |
| 注意・備考 | ・「教職・博物館学芸員課程履修の手引」の「教育実習の履修に関する申し合わせ」で示された科目の単位を修得していること。 ・講義計画の詳細な内容は教育実習校の指導のもとで決定される。 ・学習指導案，板書計画，実習ノート等の提出物については各実習校担当者により種々の方法でフィードバックされる。 |
| 試験実施 | 実施しない |

| | |
|-------|--|
| 科目名 | 教育実習 (FC05Z420) |
| 英文科目名 | Teaching Practices II |
| 担当教員名 | 塗木利明(ぬるきとしあき), 中島弘徳(なかじまひろのり), 岡本弥彦(おかもとやすひこ), 津田秀哲*(つだひでのり*), 福田博人(ふくだひろと), 藤本義博(ふじもとよしひろ), 曾我雅比児(そがまさひこ), 皿田琢司(さらたたくじ) |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 春学期 |
| 曜日時限 | 集中講義 その他 |
| 対象クラス | 理学部, バイオ・応用化学科, 機械システム工学科, 電気電子システム学科, 情報工学科, 知能機械工学科, 生体医工学科, 建築学科, 生命医療工学科, 総合情報学部, 生物地球学部, 経営学部 |
| 単位数 | 3.0 |
| 授業形態 | 実験実習 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|---|
| 1回 | 開講式・大学オリエンテーション(4時間)に参加する。 (全教員) |
| 2回 | 教科の模範授業(3時間)を観察する。 (全教員) |
| 3回 | 教科の授業参観(10時間)を行う。 (全教員) |
| 4回 | 教科の授業の研究協議(26時間)を行う。 (全教員) |
| 5回 | 教科の授業(6時間)を担当する。 (全教員) |
| 6回 | 教科の授業の反省会(10時間)を行う。 (全教員) |
| 7回 | 学級(ホームルーム)活動(2時間)の授業参観を行う。 (全教員) |
| 8回 | 学級(ホームルーム)活動の研究協議(6時間)を行う。 (全教員) |
| 9回 | 学級(ホームルーム)活動の授業(1時間)を担当する。 (全教員) |
| 10回 | 学級(ホームルーム)活動の反省会(2時間)を行う。 (全教員) |
| 11回 | 学級経営(5時間)に参加する。 (全教員) |
| 12回 | 部活動(5時間)に参加する。 (全教員) |
| 13回 | 実習のまとめと反省(8時間)を行う。 (全教員) |
| 14回 | 実習校評価のための質疑応答を行い, 閉講式(2時間)に参加する。 (全教員) |
| 15回 | 報告書を作成する。 (全教員) |

| 回数 | 準備学習 |
|----|------|
|----|------|

| | |
|-----|---|
| 1回 | 「教職・博物館学芸員課程履修の手引」、「教育実習録」の実施要項に目を通して教育実習の意義、目的、心構えなどについて振り返っておくこと（標準学習時間180分）。 |
| 2回 | 前回の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。各教科の教育法の授業内容を振り返るとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間120分）。 |
| 3回 | 前回模範授業を観察して得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくこと（標準学習時間90分）。授業参観する範囲を学習しておくとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。 |
| 4回 | 前回の授業参観で得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。研究協議での発言に向けて授業参観で気が付いたことをまとめておくとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。 |
| 5回 | 前回の授業の研究協議に参加して得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間60分）。授業の準備をするとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間120分）。 |
| 6回 | 前回授業をして得たこと、考えたこと、残った課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間60分）。授業の反省会に向けて担当した授業を振り返り気が付いたところを書き出しておくとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間120分）。 |
| 7回 | 前回の反省会に参加して得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。学級活動に焦点を置いて「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。 |
| 8回 | 前回授業参観をして得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。研究協議での発言に向けて授業参観で気が付いたことをまとめておくとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。 |
| 9回 | 前回の研究協議に参加して得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。授業の準備をするとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。 |
| 10回 | 学級活動の授業を実施して得たこと、考えたこと、残った課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。反省会に向けて担当した授業を振り返り気が付いたところを書き出しておくとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。 |
| 11回 | 前回の反省会に参加して得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。学級経営に焦点を置いて「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。 |
| 12回 | 学級経営に参加して得たこと、考えたこと、自分の課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。部活動に焦点を置いて「特別活動の理論と方法」の講義内容を振り返るとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。 |
| 13回 | 前回部活動に参加して得たこと、考えたこと、残された課題、感想などを教育実習録に記入しておくとともに実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。今までの実習中の記録に目を通すとともに、実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間90分）。 |
| 14回 | 実習校指導教諭の指示に従うこと（標準学習時間180分）。 |
| 15回 | 報告書作成および事後指導に向けて教育実習を経験して気が付いたところを書き出しておくこと（標準学習時間180分）。 |

| | |
|------|--|
| 講義目的 | この科目は、教職を志望する者が実際の教育現場において教育活動を経験するものである。その主要な目的は、講義等で学んだ理論や技術を実際の場に適用すること、実践的な指導技術の訓練 |
|------|--|

| | |
|-------------|--|
| | 、学校教育の実際についての認識の体得などである。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針E - 4にもっとも強く関与する) |
| 達成目標 | 実践的な指導技術を理解し修得すること。 学校教育の実際についての認識を体得すること。 教職に対する意識の向上と自らの適性の検証ができる。 |
| キーワード | 教育活動の経験，教育実習 |
| 成績評価（合格基準60 | 教育実習校からの成績（80%），教育実習録の内容（20%）により成績を評価し，総計で60%以上を合格とする。 |
| 関連科目 | 教育実習，教育実習実践指導 |
| 教科書 | 実習校で使用する教科書 |
| 参考書 | 実習校で使用する参考書 |
| 連絡先 | 塗木研究室：工学実習棟2階 |
| 注意・備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・「教職・博物館学芸員課程履修の手引」の「教育実習の履修に関する申し合わせ」で示された科目の単位を修得していること。 ・講義計画の詳細な内容は教育実習校の指導のもとで決定される。 ・学習指導案，板書計画，実習ノート等の提出物については各実習校担当者により種々の方法でフィードバックされる。 |
| 試験実施 | 実施しない |

| | |
|-------|--|
| 科目名 | 教職実践演習（中・高）（FC06B410） |
| 英文科目名 | Practical Seminar for Teacher Education |
| 担当教員名 | 小田満思*（おだみつし*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比児（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき） |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 秋学期 |
| 曜日時限 | 月曜日 2時限 |
| 対象クラス | 理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部 |
| 単位数 | 2.0 |
| 授業形態 | 演習 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|---|
| 1回 | これまでの学修の振り返りについての講義、履修カルテの作成、小グループの決定を行う。また、「学級開き」の指導案の作成を行う。 （小田 満思*、中島 弘徳） |
| 2回 | 年度始めの「学級開き」を想定し、講義、指導案確認、グループ討議、ロールプレイングを行う。 （小田 満思*、中島 弘徳） |
| 3回 | 「教員としての使命や責任」について講義を通して考え、グループ討議で確認する。 （小田 満思*、中島 弘徳） |
| 4回 | 学校教育における「育てる」ことの意味について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*、中島 弘徳） |
| 5回 | 「育てる」ための学年経営（案）、学級経営（案）について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*、中島 弘徳） |
| 6回 | 学年経営案の作成1 「学年経営の方針」「めざす生徒像」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*、中島 弘徳） |
| 7回 | 学年経営案の作成2 「学年指導目標」「学年の組織」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*、中島 弘徳） |
| 8回 | 学年経営案の作成3 「具体的方策」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*、中島 弘徳） |
| 9回 | 生徒指導について1 「生徒指導のねらい」と「問題行動への対応」について講義を通して考える。 （小田 満思*、曾我 雅比児） |
| 10回 | 生徒指導について2 問題行動の事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 （小田 満思*、曾我 雅比児） |
| 11回 | いじめ問題への対応1 「いじめ問題の理解と対応」について講義を通して考える。 （小田 満思*、曾我 雅比児） |
| 12回 | いじめ問題への対応2 いじめ問題の事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 （小田 満思*、曾我 雅比児） |
| 13回 | 特別支援教育 「通常学級における特別支援教育」について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*、曾我 雅比児） |

| | |
|-----|---|
| 14回 | 危機管理 「学校における危機管理」について、講義や事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 (小田 満思*,曾我 雅比兒) |
| 15回 | 授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。教職履修カルテを完成させる。 (小田 満思*,曾我 雅比兒) |

| 回数 | 準備学習 |
|-----|---|
| 1回 | 【予習】自分のこれまでの学修成果と教員としての力量を自己評価しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返り、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 2回 | 【予習】「学級開き」の指導案を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習を振り返り、自身の指導案を確認すること(標準学習時間60分)。 |
| 3回 | 【予習】「教師としての使命や責任」について自分の考えをワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返り、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 4回 | 【予習】「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」「出身中学校と地域との関わりはどのようなものであったか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】中学校において「育てる」とは何を育てるのか自身の考えをワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。 |
| 5回 | 【予習】学校経営、学年経営、学級経営の意味についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習を振り返り、学校生活の中で生徒に身につけさせたい力をワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。 |
| 6回 | 【予習】前時に学習した「学年経営の方針」「めざす生徒像」の例をもとに、「学年経営の方針」「めざす生徒像」を具体的な言葉、具体的な姿でワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「学級経営の方針」「めざす生徒像」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 7回 | 【予習】前時に学習した「学年指導目標」の例をもとに、自身の考える「学年指導目標」を具体的な言葉、具体的な姿でワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「学年指導目標」「学年の組織」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 8回 | 【予習】前時に学習した「具体的方策」の例をもとに、「具体的目標」を具体的な言葉で、「実践事項」を5W1Hを用いワークシートに具体的にまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「具体的方策」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 9回 | 【予習】「生徒指導のねらい」や「生徒指導に取り組むうえで重視しなければならないこと」をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 10回 | 【予習】前時に示した問題行動の例題をもとに「問題行動への対応」の演習問題をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習した演習での問題行動への対応について振り返り、ノートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 11回 | 【予習】「いじめの定義」や「いじめ防止対策推進法」について調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 12回 | 【予習】前時に示した「いじめ問題への対応」の例題をもとに、「いじめ問題への対応」の演習問題をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習した演習でのいじめ問題への対応について振り返り、ノートにまとめること(標準学習時間120分)。 |
| 13回 | 【予習】今までに学んだ特別支援教育のことがらについて振り返り、特に「発達障がいのある生徒に対して配慮すべき事項」をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 |

| | |
|-----|--|
| | 【復習】本時での学習を通し、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること（標準学習時間60分）。 |
| 14回 | 【予習】「危機管理の目的」について自身の考えをワークシートにまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】本時での学習を通し、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること（標準学習時間60分）。 |
| 15回 | 【予習】この授業での成果と今後の課題についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価するとともに、教職履修カルテを完成すること（標準学習時間120分）。 |

| | |
|--------------|--|
| 講義目的 | 演習を中心とした授業で、必要に応じて小集団で活動する。自己診断ならびに指導教員のアドバイスを基に各自の履修カルテを作成し、模擬授業・ロールプレイング・事例研究等を通して、不足している知識や技能を補うと共に、優れた能力をより伸ばしていく。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与) |
| 達成目標 | 教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を实践できる能力・態度を身に付ける。 |
| キーワード | 教職実践，教職履修カルテ |
| 成績評価（合格基準60） | 毎時間の課題での発表や記述（70%），履修カルテの記入状況（30%）を基に，教員としての資質とその向上を総合的に判断して評価する。100点満点中60点以上を合格とする。 |
| 関連科目 | 教育実習，教育実習 |
| 教科書 | 使用しない。 |
| 参考書 | 必要に応じて資料を配付する。 |
| 連絡先 | D2号館4階 岡本研究室 |
| 注意・備考 | 教育実習を修得していること。履修者数が30名を超える場合には、人数調整をする。 課題については、次時の授業で発表することや質問、討議することで関心を深め深化させる。また、提出された課題については評価し返却する。 小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。 |
| 試験実施 | 実施しない |

| | |
|-------|--|
| 科目名 | 教職実践演習（中・高）（FC06C410） |
| 英文科目名 | Practical Seminar for Teacher Education |
| 担当教員名 | 小田満思*（おだみつし*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき） |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 秋学期 |
| 曜日時限 | 月曜日 3時限 |
| 対象クラス | 理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部 |
| 単位数 | 2.0 |
| 授業形態 | 演習 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|---|
| 1回 | これまでの学修の振り返りについての講義、履修カルテの作成、小グループの決定を行う。また、「学級開き」の指導案の作成を行う。 （小田 満思*、皿田 琢司） |
| 2回 | 年度始めの「学級開き」を想定し、講義、指導案確認、グループ討議、ロールプレイングを行う。 （小田 満思*、皿田 琢司） |
| 3回 | 「教員としての使命や責任」について講義を通して考え、グループ討議で確認する。 （小田 満思*、皿田 琢司） |
| 4回 | 学校教育における「育てる」ことの意味について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*、皿田 琢司） |
| 5回 | 「育てる」ための学年経営（案）、学級経営（案）について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*、皿田 琢司） |
| 6回 | 学年経営案の作成1 「学年経営の方針」「めざす生徒像」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*、皿田 琢司） |
| 7回 | 学年経営案の作成2 「学年指導目標」「学年の組織」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*、皿田 琢司） |
| 8回 | 学年経営案の作成3 「具体的方策」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*、皿田 琢司） |
| 9回 | 生徒指導について1 「生徒指導のねらい」と「問題行動への対応」について講義を通して考える。 （小田 満思*、中島 弘徳） |
| 10回 | 生徒指導について2 問題行動の事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 （小田 満思*、中島 弘徳） |
| 11回 | いじめ問題への対応1 「いじめ問題の理解と対応」について講義を通して考える。 （小田 満思*、中島 弘徳） |
| 12回 | いじめ問題への対応2 いじめ問題の事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 （小田 満思*、中島 弘徳） |
| 13回 | 特別支援教育 「通常学級における特別支援教育」について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*、中島 弘徳） |

| | |
|-----|---|
| 14回 | 危機管理 「学校における危機管理」について、講義や事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 (全教員,中島 弘徳) |
| 15回 | 授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。教職履修カルテを完成させる。 (小田 満思*,中島 弘徳) |

| 回数 | 準備学習 |
|-----|---|
| 1回 | 【予習】自分のこれまでの学修成果と教員としての力量を自己評価しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返り、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 2回 | 【予習】「学級開き」の指導案を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習を振り返り、自身の指導案を確認すること(標準学習時間60分)。 |
| 3回 | 【予習】「教師としての使命や責任」について自分の考えをワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返り、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 4回 | 【予習】「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」「出身中学校と地域との関わりはどのようなものであったか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】中学校において「育てる」とは何を育てるのか自身の考えをワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。 |
| 5回 | 【予習】学校経営,学年経営,学級経営の意味についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習を振り返り、学校生活の中で生徒に身につけさせたい力をワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。 |
| 6回 | 【予習】前時に学習した「学年経営の方針」「めざす生徒像」の例をもとに、「学年経営の方針」「めざす生徒像」を具体的な言葉,具体的な姿でワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「学級経営の方針」「めざす生徒像」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 7回 | 【予習】前時に学習した「学年指導目標」の例をもとに、自身の考える「学年指導目標」を具体的な言葉,具体的な姿でワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「学年指導目標」「学年の組織」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 8回 | 【予習】前時に学習した「具体的方策」の例をもとに、「具体的目標」を具体的な言葉で、「実践事項」を5W1Hを用いワークシートに具体的にまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「具体的方策」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 9回 | 【予習】「生徒指導のねらい」や「生徒指導に取り組むうえで重視しなければならないこと」をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 10回 | 【予習】前時に示した問題行動の例題をもとに「問題行動への対応」の演習問題をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習した演習での問題行動への対応について振り返り、ノートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 11回 | 【予習】「いじめの定義」や「いじめ防止対策推進法」について調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 12回 | 【予習】前時に示した「いじめ問題への対応」の例題をもとに、「いじめ問題への対応」の演習問題をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習した演習でのいじめ問題への対応について振り返り、ノートにまとめること(標準学習時間120分)。 |
| 13回 | 【予習】今までに学んだ特別支援教育のことがらについて振り返り、特に「発達障がいのある生徒に対して配慮すべき事項」をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 |

| | |
|-----|--|
| | 【復習】本時での学習を通し、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること（標準学習時間60分）。 |
| 14回 | 【予習】「危機管理の目的」について自身の考えをワークシートにまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】本時での学習を通し、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること（標準学習時間60分）。 |
| 15回 | 【予習】この授業での成果と今後の課題についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価するとともに、教職履修カルテを完成すること（標準学習時間120分）。 |

| | |
|--------------|--|
| 講義目的 | 演習を中心とした授業で、必要に応じて小集団で活動する。自己診断ならびに指導教員のアドバイスを基に各自の履修カルテを作成し、模擬授業・ロールプレイング・事例研究等を通して、不足している知識や技能を補うと共に、優れた能力をより伸ばしていく。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与) |
| 達成目標 | 教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を实践できる能力・態度を身に付ける。 |
| キーワード | 教職実践，教職履修カルテ |
| 成績評価（合格基準60） | 毎時間の課題での発表や記述（70%），履修カルテの記入状況（30%）を基に，教員としての資質とその向上を総合的に判断して評価する。100点満点中60点以上を合格とする。 |
| 関連科目 | 教育実習，教育実習 |
| 教科書 | 使用しない。 |
| 参考書 | 必要に応じて資料を配付する。 |
| 連絡先 | D2号館4階 岡本研究室 |
| 注意・備考 | 教育実習を修得していること。履修者数が30名を超える場合には、人数調整をする。 課題については、次時の授業で発表することや質問、討議することで関心を深め深化させる。また、提出された課題については評価し返却する。 小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。 |
| 試験実施 | 実施しない |

| | |
|-------|---|
| 科目名 | 教職実践演習（中・高）（FC06G410） |
| 英文科目名 | Practical Seminar for Teacher Education |
| 担当教員名 | 津田秀哲*（つだひでのり*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曽我雅比児（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき） |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 秋学期 |
| 曜日時限 | 火曜日 2時限 |
| 対象クラス | 理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部 |
| 単位数 | 2.0 |
| 授業形態 | 演習 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|--|
| 1回 | これまでの学修の振り返りについての講義、履修カルテの作成、教科毎に小グループの決定を行う。 （津田 秀哲*、福田 博人） |
| 2回 | 学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し、特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*、福田 博人） |
| 3回 | 学校にある個人情報の種類や取扱い、著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*、福田 博人） |
| 4回 | 教員の服務について解説する。 （津田 秀哲*、福田 博人） |
| 5回 | 教員の不祥事の事例をもとにコンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*、福田 博人） |
| 6回 | 無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え、班毎でロールプレイングを行う。 （津田 秀哲*、福田 博人） |
| 7回 | 学級経営と生徒指導について解説する。また、年間を通した担任業務などについて解説する。 （津田 秀哲*、福田 博人） |
| 8回 | （学校ボランティアにより振り替える。） （津田 秀哲*、福田 博人） |
| 9回 | 学校経営計画書を元にした、自己目標シートの作成について解説する。また、前時の自分が目指す学級づくりのためのクラス目標とそれの実現に向けた具体的な取り組みについて考える。 （津田 秀哲*、皿田 琢司） |
| 10回 | 班毎で1つの学年を決め、年間行事予定などを参考にしながら教科の年間指導計画を作成する。 （津田 秀哲*、皿田 琢司） |
| 11回 | 次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。 （津田 秀哲*、皿田 琢司） |
| 12回 | デジタル教科書や電子黒板（IWB）について解説を行う。実際に、デジタル教科書や電子黒板を操作し機器の特性を知る。 （津田 秀哲*、皿田 琢司） |
| 13回 | 班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に） （津田 秀哲*、皿田 琢司） |
| 14回 | 全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い、相互評価を行う。 |

| | |
|-----|---------------------------------------|
| | (津田 秀哲*, 皿田 琢司) |
| 15回 | 資質能力向上の確認・今後の課題の発表を行い, 教職履修カルテを完成させる。 |
| | (津田 秀哲*, 皿田 琢司) |

| 回数 | 準備学習 |
|-----|--|
| 1回 | 【予習】自分のこれまでの学修成果と教員としての力量を自己評価しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 2回 | 【予習】学校現場で問題となっている、発達障害の児童生徒の障害特性について図書やインターネットで調べてまとめておく(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 3回 | 【予習】学校で扱う著作物について調べることと、著作権法第35条を理解しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 4回 | 【予習】一般の職と公務員との違いをまとめておくこと。また、教員の研修の種類について調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 5回 | 【予習】教員が不祥事を起こした際の、影響を多面的にまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 6回 | 【予習】前時に出された、クレーム対応の事例について、自分の対応にについてまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 7回 | 【予習】教育実習の経験などをもとに、自分が理想とする学級についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 9回 | 【予習】自分が理想とする学級づくりのために取り組んでみたいことをまとめておく(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 10回 | 【予習】自分の経験をもとに、学年毎の年間行事(月別)を調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 11回 | 【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み、教師として必要なICT活用能力・指導力について考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 12回 | 【予習】前時の学習で配布する、「ICT活用指導力チェックリスト」をもとに、卒業までに自分が身に付けなければならない指導力についてまとめること(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 13回 | 【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し、そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 14回 | 【予習】学習指導案を元に、模擬授業の練習を行うこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 15回 | 【予習】この講義での成果と今後の課題についてまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて, 自身の考えがどのように変わったかを自己評価するとともに、教職履修カルテを完成しておくこと(標準学習時間120分)。 |

| | |
|------|---|
| 講義目的 | 演習を中心とした授業で、必要に応じて小集団で活動する。自己診断ならびに指導教員のアドバ |
|------|---|

| | |
|-------------|--|
| | <p>イスを基に各自の履修カルテを作成し、模擬授業・ロールプレイング・事例研究等を通して、不足している知識や技能を補うと共に、優れた能力をより伸ばしていく。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与)</p> |
| 達成目標 | <p>教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を实践できる能力・態度を身に付ける。</p> |
| キーワード | <p>教職実践，教職履修カルテ</p> |
| 成績評価（合格基準60 | <p>毎時間の課題での発表や記述（70%）、履修カルテの記入状況（30%）を基に、教員としての資質とその向上を総合的に判断して評価する。100点満点中60点以上を合格とする。</p> |
| 関連科目 | <p>教育実習、教育実習</p> |
| 教科書 | <p>使用しない。</p> |
| 参考書 | <p>必要に応じて資料を配付する。</p> |
| 連絡先 | <p>A2号館8階 津田まで</p> |
| 注意・備考 | <p>教育実習を修得していること。履修者数が30名を超える場合には、人数調整をする。提出されたレポートについては、添削した後に返却する。</p> |
| 試験実施 | <p>実施しない</p> |

| | |
|-------|--|
| 科目名 | 教職実践演習（中・高）（FC06L410） |
| 英文科目名 | Practical Seminar for Teacher Education |
| 担当教員名 | 小田満思*（おだみつし*），中島弘徳（なかじまひろのり），岡本弥彦（おかもとやすひこ），福田博人（ふくだひろと），藤本義博（ふじもとよしひろ），曾我雅比兒（そがまさひこ），皿田琢司（さらたたくじ），塗木利明（ぬるきとしあき） |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 秋学期 |
| 曜日時限 | 水曜日 2時限 |
| 対象クラス | 理学部，バイオ・応用化学科，機械システム工学科，電気電子システム学科，情報工学科，知能機械工学科，生体医工学科，建築学科，生命医療工学科，総合情報学部，生物地球学部，経営学部 |
| 単位数 | 2.0 |
| 授業形態 | 演習 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|---|
| 1回 | これまでの学修の振り返りについての講義，履修カルテの作成，小グループの決定を行う。また，「学級開き」の指導案の作成を行う。 （小田 満思*，中島 弘徳） |
| 2回 | 年度始めの「学級開き」を想定し，講義，指導案確認，グループ討議，ロールプレイングを行う。 （小田 満思*，中島 弘徳） |
| 3回 | 「教員としての使命や責任」について講義を通して考え，グループ討議で確認する。 （小田 満思*，中島 弘徳） |
| 4回 | 学校教育における「育てる」ことの意味について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*，中島 弘徳） |
| 5回 | 「育てる」ための学年経営（案），学級経営（案）について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*，中島 弘徳） |
| 6回 | 学年経営案の作成 1 「学年経営の方針」「めざす生徒像」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*，中島 弘徳） |
| 7回 | 学年経営案の作成 2 「学年指導目標」「学年の組織」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*，中島 弘徳） |
| 8回 | 学年経営案の作成 3 「具体的方策」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*，中島 弘徳） |
| 9回 | 生徒指導について 1 「生徒指導のねらい」と「問題行動への対応」について講義を通して考える。 （小田 満思*，中島 弘徳） |
| 10回 | 生徒指導について 2 問題行動の事例をもとにロールプレイングを行い，グループ討議を通して考える。 （小田 満思*，中島 弘徳） |
| 11回 | いじめ問題への対応 1 「いじめ問題の理解と対応」について講義を通して考える。 （小田 満思*，中島 弘徳） |
| 12回 | いじめ問題への対応 2 いじめ問題の事例をもとにロールプレイングを行い，グループ討議を通して考える。 （小田 満思*，中島 弘徳） |
| 13回 | 特別支援教育 「通常学級における特別支援教育」について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*，中島 弘徳） |

| | |
|-----|--|
| 14回 | 危機管理 「学校における危機管理」について、講義や事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 (小田 満思*,中島 弘徳) |
| 15回 | 授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。教職履修カルテを完成させる。 (小田 満思*,中島 弘徳) |

| 回数 | 準備学習 |
|-----|---|
| 1回 | 【予習】自分のこれまでの学修成果と教員としての力量を自己評価しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返り、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 2回 | 【予習】「学級開き」の指導案を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習を振り返り、自身の指導案を確認すること(標準学習時間60分)。 |
| 3回 | 【予習】「教師としての使命や責任」について自分の考えをワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返り、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 4回 | 【予習】「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」「出身中学校と地域との関わりはどのようなものであったか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】中学校において「育てる」とは何を育てるのか自身の考えをワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。 |
| 5回 | 【予習】学校経営、学年経営、学級経営の意味についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習を振り返り、学校生活の中で生徒に身につけさせたい力をワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。 |
| 6回 | 【予習】前時に学習した「学年経営の方針」「めざす生徒像」の例をもとに、「学年経営の方針」「めざす生徒像」を具体的な言葉、具体的な姿でワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「学級経営の方針」「めざす生徒像」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 7回 | 【予習】前時に学習した「学年指導目標」の例をもとに、自身の考える「学年指導目標」を具体的な言葉、具体的な姿でワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「学年指導目標」「学年の組織」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 8回 | 【予習】前時に学習した「具体的方策」の例をもとに、「具体的目標」を具体的な言葉で、「実践事項」を5W1Hを用いワークシートに具体的にまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「具体的方策」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 9回 | 【予習】「生徒指導のねらい」や「生徒指導に取り組むうえで重視しなければならないこと」をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 10回 | 【予習】前時に示した問題行動の例題をもとに「問題行動への対応」の演習問題をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習した演習での問題行動への対応について振り返り、ノートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 11回 | 【予習】「いじめの定義」や「いじめ防止対策推進法」について調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 12回 | 【予習】前時に示した「いじめ問題への対応」の例題をもとに、「いじめ問題への対応」の演習問題をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習した演習でのいじめ問題への対応について振り返り、ノートにまとめること(標準学習時間120分)。 |
| 13回 | 【予習】今までに学んだ特別支援教育のことから振り返り、特に「発達障がいのある生徒に対して配慮すべき事項」をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 |

| | |
|-----|--|
| | 【復習】本時での学習を通し、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること（標準学習時間60分）。 |
| 14回 | 【予習】「危機管理の目的」について自身の考えをワークシートにまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】本時での学習を通し、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること（標準学習時間60分）。 |
| 15回 | 【予習】この授業での成果と今後の課題についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価するとともに、教職履修カルテを完成すること（標準学習時間120分）。 |

| | |
|-------------|--|
| 講義目的 | 演習を中心とした授業で、必要に応じて小集団で活動する。自己診断ならびに指導教員のアドバイスを基に各自の履修カルテを作成し、模擬授業・ロールプレイング・事例研究等を通して、不足している知識や技能を補うと共に、優れた能力をより伸ばしていく。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与) |
| 達成目標 | 教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を实践できる能力・態度を身に付ける。 |
| キーワード | 教職実践，教職履修カルテ |
| 成績評価（合格基準60 | 毎時間の課題での発表や記述（70%），履修カルテの記入状況（30%）を基に，教員としての資質とその向上を総合的に判断して評価する。100点満点中60点以上を合格とする。 |
| 関連科目 | 教育実習，教育実習 |
| 教科書 | 使用しない。 |
| 参考書 | 必要に応じて資料を配付する。 |
| 連絡先 | D2号館4階 岡本研究室 |
| 注意・備考 | 教育実習を修得していること。履修者数が30名を超える場合には、人数調整をする。課題については、次時の授業で発表することや質問、討議することで関心を深め深化させる。また、提出された課題については評価し返却する。 小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。 |
| 試験実施 | 実施しない |

| | |
|-------|---|
| 科目名 | 教職実践演習（中・高）（FC06L420） |
| 英文科目名 | Practical Seminar for Teacher Education |
| 担当教員名 | 津田秀哲*（つだひでのり*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき） |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 秋学期 |
| 曜日時限 | 水曜日 2時限 |
| 対象クラス | 理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部 |
| 単位数 | 2.0 |
| 授業形態 | 演習 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|---|
| 1回 | これまでの学修の振り返りについての講義，履修カルテの作成，教科毎に小グループの決定を行う。 （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 2回 | 学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し、特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 3回 | 学校にある個人情報の種類や取扱い、著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 4回 | 教員の服務について解説する。 （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 5回 | 教員の不祥事の事例をもとにコンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 6回 | 無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え、班毎でロールプレイングを行う。 （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 7回 | 学級経営と生徒指導について解説する。また、年間を通した担任業務などについて解説する。 （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 8回 | （学校ボランティアにより振り替える。） （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 9回 | 学校経営計画書を元にした、自己目標シートの作成について解説する。また、前時の自分が目指す学級づくりのためのクラス目標とそれの実現に向けた具体的な取り組みについて考える。 （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 10回 | 班毎で1つの学年を決め、年間行事予定などを参考にしながら教科の年間指導計画を作成する。 （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 11回 | 次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。 （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 12回 | デジタル教科書や電子黒板（IWB）について解説を行う。実際に、デジタル教科書や電子黒板を操作し機器の特性を知る。 （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 13回 | 班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に） （津田 秀哲*，曾我 雅比兒） |
| 14回 | 全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い、相互評価を行う。 |

| | |
|-----|--------------------------------------|
| | (津田 秀哲*,曾我 雅比兒) |
| 15回 | 資質能力向上の確認・今後の課題の発表を行い,教職履修カルテを完成させる。 |
| | (津田 秀哲*,曾我 雅比兒) |

| 回数 | 準備学習 |
|-----|---|
| 1回 | 【予習】自分のこれまでの学修成果と教員としての力量を自己評価しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 2回 | 【予習】学校現場で問題となっている,発達障害の児童生徒の障害特性について図書やインターネットで調べてまとめておく(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 3回 | 【予習】学校で扱う著作物について調べること,著作権法第35条を理解しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 4回 | 【予習】一般の職と公務員との違いをまとめておくこと。また,教員の研修の種類について調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 5回 | 【予習】教員が不祥事を起こした際の,影響を多面的にまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 6回 | 【予習】前時に出された,クレーム対応の事例について,自分の対応にについてまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 7回 | 【予習】教育実習の経験などをもとに,自分が理想とする学級についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 9回 | 【予習】自分が理想とする学級づくりのために取り組んでみたいことをまとめておく(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 10回 | 【予習】自分の経験をもとに,学年毎の年間行事(月別)を調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 11回 | 【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み,教師として必要なICT活用能力・指導力について考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 12回 | 【予習】前時の学習で配布する,「ICT活用指導力チェックリスト」をもとに,卒業までに自分が身に付けなければならない指導力についてまとめること(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 13回 | 【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し,そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 14回 | 【予習】学習指導案を元に,模擬授業の練習を行うこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 15回 | 【予習】この講義での成果と今後の課題についてまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて,自身の考えがどのように変わったかを自己評価するとともに,教職履修カルテを完成しておくこと(標準学習時間120分)。 |

| | |
|------|---|
| 講義目的 | 演習を中心とした授業で,必要に応じて小集団で活動する。自己診断ならびに指導教員のアドバ |
|------|---|

| | |
|-------------|--|
| | <p>イスを基に各自の履修カルテを作成し、模擬授業・ロールプレイング・事例研究等を通して、不足している知識や技能を補うと共に、優れた能力をより伸ばしていく。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与)</p> |
| 達成目標 | <p>教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を实践できる能力・態度を身に付ける。</p> |
| キーワード | <p>教職実践，教職履修カルテ</p> |
| 成績評価（合格基準60 | <p>毎時間の課題での発表や記述（70%）、履修カルテの記入状況（30%）を基に、教員としての資質とその向上を総合的に判断して評価する。100点満点中60点以上を合格とする。</p> |
| 関連科目 | <p>教育実習、教育実習</p> |
| 教科書 | <p>使用しない。</p> |
| 参考書 | <p>必要に応じて資料を配付する。</p> |
| 連絡先 | <p>A2号館8階 津田まで</p> |
| 注意・備考 | <p>教育実習を修得していること。履修者数が30名を超える場合には、人数調整をする。提出されたレポートについては、添削した後に返却する。</p> |
| 試験実施 | <p>実施しない</p> |

| | |
|-------|--|
| 科目名 | 教職実践演習（中・高）（FC06M410） |
| 英文科目名 | Practical Seminar for Teacher Education |
| 担当教員名 | 小田満思*（おだみつし*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき） |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 秋学期 |
| 曜日時限 | 水曜日 3時限 |
| 対象クラス | 理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部 |
| 単位数 | 2.0 |
| 授業形態 | 演習 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|--|
| 1回 | これまでの学修の振り返りについての講義、履修カルテの作成、小グループの決定を行う。また、「学級開き」の指導案の作成を行う。 (小田 満思*, 皿田 琢司) |
| 2回 | 年度始めの「学級開き」を想定し、講義、指導案確認、グループ討議、ロールプレイングを行う。 (小田 満思*, 皿田 琢司) |
| 3回 | 「教員としての使命や責任」について講義を通して考え、グループ討議で確認する。 (小田 満思*, 皿田 琢司) |
| 4回 | 学校教育における「育てる」ことの意味について講義やグループ討議を通して考える。 (小田 満思*, 皿田 琢司) |
| 5回 | 「育てる」ための学年経営（案）、学級経営（案）について講義やグループ討議を通して考える。 (小田 満思*, 皿田 琢司) |
| 6回 | 学年経営案の作成 1 「学年経営の方針」「めざす生徒像」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 (小田 満思*, 皿田 琢司) |
| 7回 | 学年経営案の作成 2 「学年指導目標」「学年の組織」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 (小田 満思*, 皿田 琢司) |
| 8回 | 学年経営案の作成 3 「具体的方策」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 (小田 満思*, 皿田 琢司) |
| 9回 | 生徒指導について 1 「生徒指導のねらい」と「問題行動への対応」について講義を通して考える。 (小田 満思*, 塗木 利明) |
| 10回 | 生徒指導について 2 問題行動の事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 (小田 満思*, 塗木 利明) |
| 11回 | いじめ問題への対応 1 「いじめ問題の理解と対応」について講義を通して考える。 (小田 満思*, 塗木 利明) |
| 12回 | いじめ問題への対応 2 いじめ問題の事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 (小田 満思*, 塗木 利明) |
| 13回 | 特別支援教育 「通常学級における特別支援教育」について講義やグループ討議を通して考える。 (小田 満思*, 塗木 利明) |

| | |
|-----|---|
| 14回 | 危機管理 「学校における危機管理」について、講義や事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 (小田 満思*, 塗木 利明) |
| 15回 | 授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。教職履修カルテを完成させる。 (小田 満思*, 塗木 利明) |

| 回数 | 準備学習 |
|-----|---|
| 1回 | 【予習】自分のこれまでの学修成果と教員としての力量を自己評価しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返り、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 2回 | 【予習】「学級開き」の指導案を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習を振り返り、自身の指導案を確認すること(標準学習時間60分)。 |
| 3回 | 【予習】「教師としての使命や責任」について自分の考えをワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返り、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 4回 | 【予習】「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」「出身中学校と地域との関わりはどのようなものであったか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】中学校において「育てる」とは何を育てるのか自身の考えをワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。 |
| 5回 | 【予習】学校経営、学年経営、学級経営の意味についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習を振り返り、学校生活の中で生徒に身につけさせたい力をワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。 |
| 6回 | 【予習】前時に学習した「学年経営の方針」「めざす生徒像」の例をもとに、「学年経営の方針」「めざす生徒像」を具体的な言葉、具体的な姿でワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「学級経営の方針」「めざす生徒像」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 7回 | 【予習】前時に学習した「学年指導目標」の例をもとに、自身の考える「学年指導目標」を具体的な言葉、具体的な姿でワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「学年指導目標」「学年の組織」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 8回 | 【予習】前時に学習した「具体的方策」の例をもとに、「具体的目標」を具体的な言葉で、「実践事項」を5W1Hを用いワークシートに具体的にまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「具体的方策」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 9回 | 【予習】「生徒指導のねらい」や「生徒指導に取り組むうえで重視しなければならないこと」をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 10回 | 【予習】前時に示した問題行動の例題をもとに「問題行動への対応」の演習問題をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習した演習での問題行動への対応について振り返り、ノートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 11回 | 【予習】「いじめの定義」や「いじめ防止対策推進法」について調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 12回 | 【予習】前時に示した「いじめ問題への対応」の例題をもとに、「いじめ問題への対応」の演習問題をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習した演習でのいじめ問題への対応について振り返り、ノートにまとめること(標準学習時間120分)。 |
| 13回 | 【予習】今までに学んだ特別支援教育のことがらについて振り返り、特に「発達障がいのある生徒に対して配慮すべき事項」をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 |

| | |
|-----|--|
| | 【復習】本時での学習を通し、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること（標準学習時間60分）。 |
| 14回 | 【予習】「危機管理の目的」について自身の考えをワークシートにまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】本時での学習を通し、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること（標準学習時間60分）。 |
| 15回 | 【予習】この授業での成果と今後の課題についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価するとともに、教職履修カルテを完成すること（標準学習時間120分）。 |

| | |
|--------------|--|
| 講義目的 | 演習を中心とした授業で、必要に応じて小集団で活動する。自己診断ならびに指導教員のアドバイスを基に各自の履修カルテを作成し、模擬授業・ロールプレイング・事例研究等を通して、不足している知識や技能を補うと共に、優れた能力をより伸ばしていく。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与) |
| 達成目標 | 教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を实践できる能力・態度を身に付ける。 |
| キーワード | 教職実践，教職履修カルテ |
| 成績評価（合格基準60） | 毎時間の課題での発表や記述（70%），履修カルテの記入状況（30%）を基に，教員としての資質とその向上を総合的に判断して評価する。100点満点中60点以上を合格とする。 |
| 関連科目 | 教育実習，教育実習 |
| 教科書 | 使用しない。 |
| 参考書 | 必要に応じて資料を配付する。 |
| 連絡先 | D2号館4階 岡本研究室 |
| 注意・備考 | 教育実習を修得していること。履修者数が30名を超える場合には、人数調整をする。 課題については、次時の授業で発表することや質問、討議することで関心を深め深化させる。また、提出された課題については評価し返却する。 小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。 |
| 試験実施 | 実施しない |

| | |
|-------|--|
| 科目名 | 教職実践演習（中・高）（FC06V410） |
| 英文科目名 | Practical Seminar for Teacher Education |
| 担当教員名 | 小田満思*（おだみつし*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき） |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 秋学期 |
| 曜日時限 | 金曜日 2時限 |
| 対象クラス | 理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部 |
| 単位数 | 2.0 |
| 授業形態 | 演習 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|---|
| 1回 | これまでの学修の振り返りについての講義、履修カルテの作成、小グループの決定を行う。また、「学級開き」の指導案の作成を行う。 （小田 満思*、福田 博人） |
| 2回 | 年度始めの「学級開き」を想定し、講義、指導案確認、グループ討議、ロールプレイングを行う。 （小田 満思*、福田 博人） |
| 3回 | 「教員としての使命や責任」について講義を通して考え、グループ討議で確認する。 （小田 満思*、福田 博人） |
| 4回 | 学校教育における「育てる」ことの意味について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*、福田 博人） |
| 5回 | 「育てる」ための学年経営（案）、学級経営（案）について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*、福田 博人） |
| 6回 | 学年経営案の作成1 「学年経営の方針」「めざす生徒像」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*、福田 博人） |
| 7回 | 学年経営案の作成2 「学年指導目標」「学年の組織」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*、福田 博人） |
| 8回 | 学年経営案の作成3 「具体的方策」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*、福田 博人） |
| 9回 | 生徒指導について1 「生徒指導のねらい」と「問題行動への対応」について講義を通して考える。 （小田 満思*、福田 博人） |
| 10回 | 生徒指導について2 問題行動の事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 （小田 満思*、福田 博人） |
| 11回 | いじめ問題への対応1 「いじめ問題の理解と対応」について講義を通して考える。 （小田 満思*、福田 博人） |
| 12回 | いじめ問題への対応2 いじめ問題の事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 （小田 満思*、福田 博人） |
| 13回 | 特別支援教育 「通常学級における特別支援教育」について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*、福田 博人） |

| | |
|-----|---|
| 14回 | 危機管理 「学校における危機管理」について、講義や事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 (小田 満思*, 福田 博人) |
| 15回 | 授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。教職履修カルテを完成させる。 (小田 満思*, 福田 博人) |

| 回数 | 準備学習 |
|-----|---|
| 1回 | 【予習】自分のこれまでの学修成果と教員としての力量を自己評価しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返り、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 2回 | 【予習】「学級開き」の指導案を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習を振り返り、自身の指導案を確認すること(標準学習時間60分)。 |
| 3回 | 【予習】「教師としての使命や責任」について自分の考えをワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返り、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 4回 | 【予習】「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」「出身中学校と地域との関わりはどのようなものであったか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】中学校において「育てる」とは何を育てるのか自身の考えをワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。 |
| 5回 | 【予習】学校経営、学年経営、学級経営の意味についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習を振り返り、学校生活の中で生徒に身につけさせたい力をワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。 |
| 6回 | 【予習】前時に学習した「学年経営の方針」「めざす生徒像」の例をもとに、「学年経営の方針」「めざす生徒像」を具体的な言葉、具体的な姿でワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「学級経営の方針」「めざす生徒像」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 7回 | 【予習】前時に学習した「学年指導目標」の例をもとに、自身の考える「学年指導目標」を具体的な言葉、具体的な姿でワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「学年指導目標」「学年の組織」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 8回 | 【予習】前時に学習した「具体的方策」の例をもとに、「具体的目標」を具体的な言葉で、「実践事項」を5W1Hを用いワークシートに具体的にまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「具体的方策」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 9回 | 【予習】「生徒指導のねらい」や「生徒指導に取り組むうえで重視しなければならないこと」をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 10回 | 【予習】前時に示した問題行動の例題をもとに「問題行動への対応」の演習問題をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習した演習での問題行動への対応について振り返り、ノートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 11回 | 【予習】「いじめの定義」や「いじめ防止対策推進法」について調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 12回 | 【予習】前時に示した「いじめ問題への対応」の例題をもとに、「いじめ問題への対応」の演習問題をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習した演習でのいじめ問題への対応について振り返り、ノートにまとめること(標準学習時間120分)。 |
| 13回 | 【予習】今までに学んだ特別支援教育のことがらについて振り返り、特に「発達障がいのある生徒に対して配慮すべき事項」をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 |

| | |
|-----|--|
| | 【復習】本時での学習を通し、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること（標準学習時間60分）。 |
| 14回 | 【予習】「危機管理の目的」について自身の考えをワークシートにまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】本時での学習を通し、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること（標準学習時間60分）。 |
| 15回 | 【予習】この授業での成果と今後の課題についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価するとともに、教職履修カルテを完成すること（標準学習時間120分）。 |

| | |
|-------------|--|
| 講義目的 | 演習を中心とした授業で、必要に応じて小集団で活動する。自己診断ならびに指導教員のアドバイスを基に各自の履修カルテを作成し、模擬授業・ロールプレイング・事例研究等を通して、不足している知識や技能を補うと共に、優れた能力をより伸ばしていく。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与) |
| 達成目標 | 教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を实践できる能力・態度を身に付ける。 |
| キーワード | 教職実践，教職履修カルテ |
| 成績評価（合格基準60 | 毎時間の課題での発表や記述（70%），履修カルテの記入状況（30%）を基に，教員としての資質とその向上を総合的に判断して評価する。100点満点中60点以上を合格とする。 |
| 関連科目 | 教育実習，教育実習 |
| 教科書 | 使用しない。 |
| 参考書 | 必要に応じて資料を配付する。 |
| 連絡先 | D2号館4階 岡本研究室 |
| 注意・備考 | 教育実習を修得していること。履修者数が30名を超える場合には、人数調整をする。課題については、次時の授業で発表することや質問、討議することで関心を深め深化させる。また、提出された課題については評価し返却する。 小集団でのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。 |
| 試験実施 | 実施しない |

| | |
|-------|---|
| 科目名 | 教職実践演習（中・高）（FC06V420） |
| 英文科目名 | Practical Seminar for Teacher Education |
| 担当教員名 | 津田秀哲*（つだひでのり*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比児（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき） |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 秋学期 |
| 曜日時限 | 金曜日 2時限 |
| 対象クラス | 理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部 |
| 単位数 | 2.0 |
| 授業形態 | 演習 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|--|
| 1回 | これまでの学修の振り返りについての講義，履修カルテの作成，教科毎に小グループの決定を行う。 （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 2回 | 学習障害のある生徒を扱ったビデオを視聴し、特別な支援が必要な生徒の障害特性やその対応について解説する。 （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 3回 | 学校にある個人情報の種類や取扱い、著作権について解説しいくつかの事例について班毎で話し合う。 （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 4回 | 教員の服務について解説する。 （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 5回 | 教員の不祥事の事例をもとにコンプライアンスの大切さについて考える。 （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 6回 | 無理な要求をする保護者への対応や地域からのクレーム電話などの対応について考え、班毎でロールプレイングを行う。 （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 7回 | 学級経営と生徒指導について解説する。また、年間を通した担任業務などについて解説する。 （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 8回 | （学校ボランティアにより振り替える。） （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 9回 | 学校経営計画書を元にした、自己目標シートの作成について解説する。また、前時の自分が目指す学級づくりのためのクラス目標とそれの実現に向けた具体的な取り組みについて考える。 （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 10回 | 班毎で1つの学年を決め、年間行事予定などを参考にしながら教科の年間指導計画を作成する。 （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 11回 | 次期学習指導要領と教育の情報化（校務の情報化を含む）について解説する。 （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 12回 | デジタル教科書や電子黒板（IWB）について解説を行う。実際に、デジタル教科書や電子黒板を操作し機器の特性を知る。 （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 13回 | 班毎でデジタル教科書を用いた学習指導案を作成する。（デジタル教材の効果的な提示の方法などを中心に） （津田 秀哲*，塗木 利明） |
| 14回 | 全ての班が決められた時間でデジタル教科書を活用した模擬授業を行い、相互評価を行う。 |

| | |
|-----|--------------------------------------|
| | (津田 秀哲*, 塗木 利明) |
| 15回 | 資質能力向上の確認・今後の課題の発表を行い、教職履修カルテを完成させる。 |
| | (津田 秀哲*, 塗木 利明) |

| 回数 | 準備学習 |
|-----|---|
| 1回 | 【予習】自分のこれまでの学修成果と教員としての力量を自己評価しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 2回 | 【予習】学校現場で問題となっている、発達障害の児童生徒の障害特性について図書やインターネットで調べてまとめておく(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 3回 | 【予習】学校で扱う著作物について調べること、著作権法第35条を理解しておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 4回 | 【予習】一般の職と公務員との違いをまとめておくこと。また、教員の研修の種類について調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 5回 | 【予習】教員が不祥事を起こした際の、影響を多面的にまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 6回 | 【予習】前時に出された、クレーム対応の事例について、自分の対応にについてまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 7回 | 【予習】教育実習の経験などをもとに、自分が理想とする学級についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 9回 | 【予習】自分が理想とする学級づくりのために取り組んでみたいことをまとめておく(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 10回 | 【予習】自分の経験をもとに、学年毎の年間行事(月別)を調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 11回 | 【予習】文部科学省の「教育情報化の手引き」を読み、教師として必要なICT活用能力・指導力について考えておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 12回 | 【予習】前時の学習で配布する、「ICT活用指導力チェックリスト」をもとに、卒業までに自分が身に付けなければならない指導力についてまとめること(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 13回 | 【予習】班毎で教科書をもとに模擬授業で扱う教材を決定し、そこで扱われているデジタル教材を体験しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 14回 | 【予習】学習指導案を元に、模擬授業の練習を行うこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 15回 | 【予習】この講義での成果と今後の課題についてまとめておくこと(標準学習時間60分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価するとともに、教職履修カルテを完成しておくこと(標準学習時間120分)。 |

| | |
|------|---|
| 講義目的 | 演習を中心とした授業で、必要に応じて小集団で活動する。自己診断ならびに指導教員のアドバ |
|------|---|

| | |
|-------------|--|
| | <p>イスを基に各自の履修カルテを作成し、模擬授業・ロールプレイング・事例研究等を通して、不足している知識や技能を補うと共に、優れた能力をより伸ばしていく。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与)</p> |
| 達成目標 | <p>教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を实践できる能力・態度を身に付ける。</p> |
| キーワード | <p>教職実践，教職履修カルテ</p> |
| 成績評価（合格基準60 | <p>毎時間の課題での発表や記述（70%）、履修カルテの記入状況（30%）を基に、教員としての資質とその向上を総合的に判断して評価する。100点満点中60点以上を合格とする。</p> |
| 関連科目 | <p>教育実習、教育実習</p> |
| 教科書 | <p>使用しない。</p> |
| 参考書 | <p>必要に応じて資料を配付する。</p> |
| 連絡先 | <p>A2号館8階 津田まで</p> |
| 注意・備考 | <p>教育実習を修得していること。履修者数が30名を超える場合には、人数調整をする。提出されたレポートについては、添削した後に返却する。</p> |
| 試験実施 | <p>実施しない</p> |

| | |
|-------|--|
| 科目名 | 教職実践演習（中・高）（FC06W410） |
| 英文科目名 | Practical Seminar for Teacher Education |
| 担当教員名 | 小田満思*（おだみつし*）、中島弘徳（なかじまひろのり）、岡本弥彦（おかもとやすひこ）、福田博人（ふくだひろと）、藤本義博（ふじもとよしひろ）、曾我雅比兒（そがまさひこ）、皿田琢司（さらたたくじ）、塗木利明（ぬるきとしあき） |
| 対象学年 | 4年 |
| 開講学期 | 秋学期 |
| 曜日時限 | 金曜日 3時限 |
| 対象クラス | 理学部、バイオ・応用化学科、機械システム工学科、電気電子システム学科、情報工学科、知能機械工学科、生体医工学科、建築学科、生命医療工学科、総合情報学部、生物地球学部、経営学部 |
| 単位数 | 2.0 |
| 授業形態 | 演習 |

| 回数 | 授業内容 |
|-----|---|
| 1回 | これまでの学修の振り返りについての講義、履修カルテの作成、小グループの決定を行う。また、「学級開き」の指導案の作成を行う。 （小田 満思*、岡本 弥彦） |
| 2回 | 年度始めの「学級開き」を想定し、講義、指導案確認、グループ討議、ロールプレイングを行う。 （小田 満思*、岡本 弥彦） |
| 3回 | 「教員としての使命や責任」について講義を通して考え、グループ討議で確認する。 （小田 満思*、岡本 弥彦） |
| 4回 | 学校教育における「育てる」ことの意味について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*、岡本 弥彦） |
| 5回 | 「育てる」ための学年経営（案）、学級経営（案）について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*、岡本 弥彦） |
| 6回 | 学年経営案の作成1 「学年経営の方針」「めざす生徒像」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*、岡本 弥彦） |
| 7回 | 学年経営案の作成2 「学年指導目標」「学年の組織」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*、岡本 弥彦） |
| 8回 | 学年経営案の作成3 「具体的方策」について講義やグループ討議を通して考え作成する。 （小田 満思*、岡本 弥彦） |
| 9回 | 生徒指導について1 「生徒指導のねらい」と「問題行動への対応」について講義を通して考える。 （小田 満思*、藤本 義博） |
| 10回 | 生徒指導について2 問題行動の事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 （小田 満思*、藤本 義博） |
| 11回 | いじめ問題への対応1 「いじめ問題の理解と対応」について講義を通して考える。 （小田 満思*、藤本 義博） |
| 12回 | いじめ問題への対応2 いじめ問題の事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 （小田 満思*、藤本 義博） |
| 13回 | 特別支援教育 「通常学級における特別支援教育」について講義やグループ討議を通して考える。 （小田 満思*、藤本 義博） |

| | |
|-----|---|
| 14回 | 危機管理 「学校における危機管理」について、講義や事例をもとにロールプレイングを行い、グループ討議を通して考える。 (小田 満思*, 藤本 義博) |
| 15回 | 授業を通して身につけたことや今後の課題となったことについて発表する。教職履修カルテを完成させる。 (小田 満思*, 藤本 義博) |

| 回数 | 準備学習 |
|-----|---|
| 1回 | 【予習】自分のこれまでの学修成果と教員としての力量を自己評価しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返り、自身の考えがどのように変わったかを自己評価しておくこと(標準学習時間60分)。 |
| 2回 | 【予習】「学級開き」の指導案を作成しておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習を振り返り、自身の指導案を確認すること(標準学習時間60分)。 |
| 3回 | 【予習】「教師としての使命や責任」について自分の考えをワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返り、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 4回 | 【予習】「出身中学校はあなたにどのような力をつけてくれたか」「出身中学校と地域との関わりはどのようなものであったか」を発表できるようにワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】中学校において「育てる」とは何を育てるのか自身の考えをワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。 |
| 5回 | 【予習】学校経営、学年経営、学級経営の意味についてまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習を振り返り、学校生活の中で生徒に身につけさせたい力をワークシートにまとめること(標準学習時間60分)。 |
| 6回 | 【予習】前時に学習した「学年経営の方針」「めざす生徒像」の例をもとに、「学年経営の方針」「めざす生徒像」を具体的な言葉、具体的な姿でワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「学級経営の方針」「めざす生徒像」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 7回 | 【予習】前時に学習した「学年指導目標」の例をもとに、自身の考える「学年指導目標」を具体的な言葉、具体的な姿でワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「学年指導目標」「学年の組織」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 8回 | 【予習】前時に学習した「具体的方策」の例をもとに、「具体的目標」を具体的な言葉で、「実践事項」を5W1Hを用いワークシートに具体的にまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】グループで決定した「具体的方策」を学級経営案に記入すること(標準学習時間60分)。 |
| 9回 | 【予習】「生徒指導のねらい」や「生徒指導に取り組むうえで重視しなければならないこと」をワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 10回 | 【予習】前時に示した問題行動の例題をもとに「問題行動への対応」の演習問題をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習した演習での問題行動への対応について振り返り、ノートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 11回 | 【予習】「いじめの定義」や「いじめ防止対策推進法」について調べ、ワークシートにまとめておくこと。(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習をもとに、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること(標準学習時間60分)。 |
| 12回 | 【予習】前時に示した「いじめ問題への対応」の例題をもとに、「いじめ問題への対応」の演習問題をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時での学習した演習でのいじめ問題への対応について振り返り、ノートにまとめること(標準学習時間120分)。 |
| 13回 | 【予習】今までに学んだ特別支援教育のことがらについて振り返り、特に「発達障がいのある生徒に対して配慮すべき事項」をワークシートにまとめておくこと(標準学習時間120分)。 |

| | |
|-----|--|
| | 【復習】本時での学習を通し、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること（標準学習時間60分）。 |
| 14回 | 【予習】「危機管理の目的」について自身の考えをワークシートにまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】本時での学習を通し、自身の考えがどのように変わったかを自己評価すること（標準学習時間60分）。 |
| 15回 | 【予習】この授業での成果と今後の課題についてまとめておくこと（標準学習時間60分）。 【復習】本時での学習の前後や学習履歴を振り返ってみて、自身の考えがどのように変わったかを自己評価するとともに、教職履修カルテを完成すること（標準学習時間120分）。 |

| | |
|--------------|--|
| 講義目的 | 演習を中心とした授業で、必要に応じて小グループで活動する。自己診断ならびに指導教員のアドバイスを基に各自の履修カルテを作成し、模擬授業・ロールプレイング・事例研究等を通して、不足している知識や技能を補うと共に、優れた能力をより伸ばしていく。 (教職・学芸員センター教育課程編成・実施の方針Fにもっとも強く関与) |
| 達成目標 | 教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を实践できる能力・態度を身に付ける。 |
| キーワード | 教職実践，教職履修カルテ |
| 成績評価（合格基準60） | 毎時間の課題での発表や記述（70%），履修カルテの記入状況（30%）を基に，教員としての資質とその向上を総合的に判断して評価する。100点満点中60点以上を合格とする。 |
| 関連科目 | 教育実習，教育実習 |
| 教科書 | 使用しない。 |
| 参考書 | 必要に応じて資料を配付する。 |
| 連絡先 | D2号館4階 岡本研究室 |
| 注意・備考 | 教育実習を修得していること。履修者数が30名を超える場合には、人数調整をする。 課題については、次時の授業で発表することや質問、討議することで関心を深め深化させる。また、提出された課題については評価し返却する。 小グループでのグループ活動，ロールプレーを適宜取り入れ，考える時間，表現する時間を確保する。 |
| 試験実施 | 実施しない |